

# 郷土摂津 いにしえ通信

第84号



平成17年4月1日

発行

摂津市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課

〒566 - 8555 摂津市三島一丁目1 - 1

(06)6383 - 1111 (072)638 - 0007

ホームページアドレス

<http://www.city.settsu.osaka.jp/>



## ふるさとの川「淀川」

～川は流れる悠久の歴史の中で～

### 第1回 淀川の源・琵琶湖の誕生

人類が出現する以前の原始・古代・  
中近世から現代まで時代別に淀川  
と摂津市の関わりに迫ります。



**琵琶湖は、世界有数の古い湖** 琵琶湖は、カスピ海やバイカル湖などとともに、「古代湖」として自然史上とっても貴重な湖の一つです。「古代湖」とは、数十万年以前に誕生した寿命の長い湖のことで、世界にわずか10カ所ほどしか確認されていません。最初の古琵琶湖は、現在の上野盆地（三重県）あたりに誕生したことがわかっています。古琵琶湖は、その後400万年かけて、大きくなったり消滅したりしながら北へ移動し、現在の位置にたどりつきました。いまのように深くて、大きな湖になってきたのは、約40万年前のことです

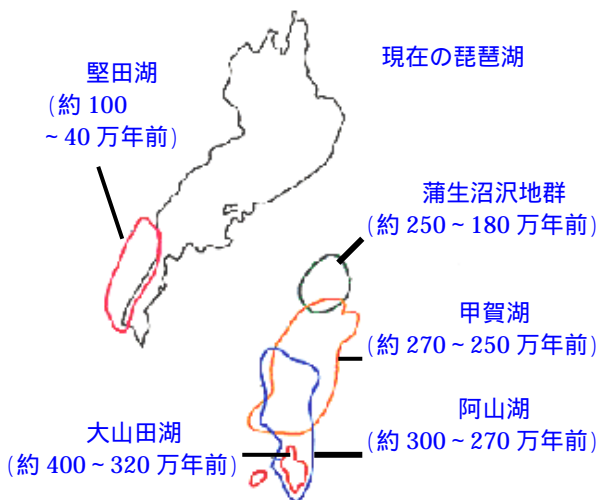
**約400万年前 亜熱帯の湖が誕生** 三重県の伊賀上野地方にできた盆地のくぼみに水がたまり、古琵琶湖（大山田湖）が初めて姿を現しました。当時の化石から、亜熱帯性の気候だったこの湖には、魚や貝類など、多様で豊富な水生生物がすんでいました。約320万年前まで続いた大山田湖は、その後土砂に埋めつくされてしまいました。

**約300万年前 広い湖、深い湖** およそ300万年前になると、再び湖が姿を現します。大山田湖のあったあたりから北側にかけて浅く大きく広がる阿山湖と呼ばれる湖です。阿山湖は、約270万年前には埋まっていきました。その後、阿山湖より少し北側に別の湖ができました。岸辺に山が迫る深い湖で、甲賀湖と呼ばれています。甲賀湖は約20万年間安定した状態が続きますが、その後、隆起して消滅しました。

**約250万年前 メタセコイアの森をゾウが歩く** 250～180万年前頃は、今の湖南から湖東地域にかけて、あちこちに湖沼や湿地（蒲生沼沢地群）ができました。安定した湖ではなく、たびたび洪水で水がたまり、一時的に湖ができたような状態でした。やがて干上がり、メタセコイアなどの大木が茂る森が広がりました。このころの古琵琶湖層からは、ゾウの骨格や足跡化石も見つかっています。

**約100万年前 新たな湖の形成** 現在の堅田丘陵付近に小さな湖堅田湖ができました。このころ、現在の琵琶湖にすむ魚類の固有種の直接の先祖が姿を現したといわれています。

**約40万年前 深くて広い現琵琶湖の誕生** このころ、堅田地域と琵琶湖の間にある断層の活動で、堅田丘陵は隆起し、断層の東側が落ち込むことで琵琶湖が姿を現しました。現在の琵琶湖の誕生です。琵琶湖の湖底はどんどん沈降し、やがて現在のような深くて広い琵琶湖が形成されました。そして、さまざまな生物が生息できる多様な環境が生まれ長い歴史を語る固有の動植物を含む豊かな生態系が形成されました。（一部滋賀県ホームページより引用）



## お知らせ



## ふるさと撰津講座



撰津市とゆかりのあるテーマを選択し、古代からちょっと昔まで、撰津市の歴史を楽しく学習する講座です。

全7回

受講料無料

## 講座スケジュール(いずれも第3水曜日)

開催日	内容	講師
6月15日	山行きと年中行事	塩見 庄次郎氏
	新幹線鳥飼基地	横田 正明氏
7月20日	都市化と水害	高上 慶美氏
9月21日	貴族も遊んだ「鳥養院」	林 健三氏
	北撰の昔話	深田 功子氏
10月19日	蓮如の撰津布教	田中 猛氏
	江州音頭と権六踊り	稲森正恵・川西幸代氏
11月16日	淀川改修	奥田 進氏
	蕪村と淀川	古谷 邦雄氏
1月18日	青年会・青年団の歴史	神谷 令美氏
	吹田操車場跡と明和池遺跡	範國 忠士氏
3月15日	味生地区の歴史散策	平成 17 年度ふるさと撰津案内人養成講座修了生

## 【期 間】

平成 17 年 6 月 15 日 (水) から  
平成 18 年 3 月 15 日 (水) まで

## 【時 間】

午後 2 時から 4 時まで

## 【会 場】

総合福祉会館第 1 会議室他

## 【定 員】60 名

## 【講 師】ふるさと撰津案内人

ふるさと撰津案内人は、文化財からふるさとの歴史を学習し、後世の人々に伝えていく市民によるボランティアグループです。

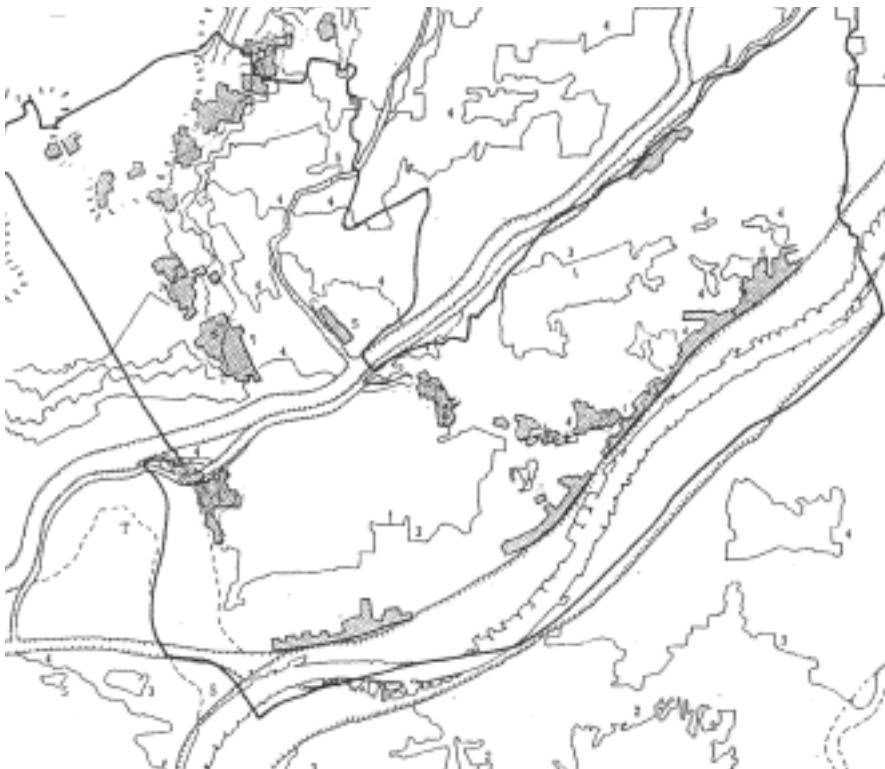
受講に際しては、申込みは必要ありません。各回とも直接会場へご来場ください。



## 第47回 埋もれた撰津市の歴史 1m等高線から見た撰津市



撰津市は千里丘陵と淀川右岸にはさまれた位置に立地します。市域では古代からこれらの立地状況に左右されながら集落が形成されてきました。とくに悠久の昔より泰然と流れる淀川は時には恵みを、時には自然の脅威をもたらし、わたしたちの生活に欠かせないものでした。この淀川と集落の変遷を考える上で、「淀川下流域における地形と河川流路の変遷『大阪文化財論集・大阪府文化財センター・2002』阪田育功」という興味深い研究論文があります。この論文では、1m等高線から淀川下流域の微地形を検討し淀川河川の流路、遺跡の変遷について考察を加えています。左図は同論文で引用されている昭和 36 年大阪府作成 3000 分の 1 地形図に撰津市の範囲及び近世集落の位置を加筆したものです。次号より詳細をお知らせします。(つづく)



鳥飼上村 鳥飼中村 鳥飼下村 鳥飼八町村 鳥飼野々村 鳥飼西村 鳥飼八防村 一津屋村 新在家村 別府村 味舌下村 正音寺村 庄屋村 味舌上村 坪井村 小坪井村 太中村 乙辻村 鶴野村